

「公印省略」

4 農林試第 1 8 1 6 号
令和 4 年 7 月 1 5 日

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 4 年度病虫害発生予察技術情報第 5 号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第 5 号「海外飛来性害虫の飛来状況（第 2 報）」を発表しましたので送付します。

技術情報第 5 号

1 作物名 水稻

2 病虫害名 海外飛来性害虫（セジロウンカ、トビイロウンカ、コブノメイガ）

3 発生状況

(1) 飛来状況

1) 県内予察灯(5か所)では、6月16日から7月10日までセジロウンカ・トビイロウンカの捕獲が複数回確認された。特に、6月21日から28日、7月6日から7月10日にかけては断続的に、セジロウンカ・トビイロウンカが捕獲された。

コブノメイガは予察灯およびネットラップで捕獲されていない。

2) セジロウンカ・トビイロウンカの飛来日を6月16日、6月25日、7月6日とし、主飛来日を6月25日と推定した(図1)。(「JPP-NET」の飛来解析・県内の調査結果・近隣県の飛来状況を参考)

また、近隣県のコブノメイガ飛来状況、県内調査結果を基に、コブノメイガの飛来日を6月25日、7月6日と推定した(図2)。

(2) 7月2半旬のほ場調査結果（セジロウンカ・トビイロウンカ）

1) セジロウンカ

10株当たりの払落し成幼虫数は平均0.1頭(平年3.8頭、前年0.2頭)、発生ほ場率は9.8%(平年38.5%、前年10.9%)で、発生量は平年より少なく前年並であった。

2) トビイロウンカ

10株当たりの払落し成幼虫数は平均0頭(平年0.2頭、前年0頭)、発生ほ場率は0%(平年9.3%、前年0%)で、払落し虫数・ほ場率ともに平年・前年並であった。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 今後の発生状況については、病虫害防除所が発表する病虫害発生予察情報や随時更新される病虫害発生動向を活用する。
- (2) トビイロウンカは、田植時期や使用した育苗箱施薬剤の種類、地域およびほ場による発生差が大きい。また、育苗箱施薬剤が施用されたほ場でも、田植後1か月以上経過すると農薬の効果の低下に伴い増殖しやすくなるので、発生予想パターン図を参考に、ほ場における発生状況を必ず把握し、発生が多い場合は幼虫期に防除を行う。

＜要防除水準：トビイロウンカ幼虫の合計数＞

飛来後第1世代：20頭/100株

飛来後第2世代：100頭/100株

- (3) 無人航空機による防除を気温が高い時間帯に実施すると、薬剤の種類によってはイネの株元に到達する前に気化し、防除効果が著しく低下する場合がありますので、気温が上昇する前の早朝に実施する。
- (4) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する。
- (5) 病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①



○Twitter（ツイッター）で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②



月	7月															8月																																
日				5				10				15				20				25				31				5				10				15				20				25				31

6月25日
飛来

卵	第1世代幼虫															蛹	成虫	卵	第2世代幼虫															蛹	
---	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	----	---	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

7月6日
飛来

成虫	卵	第1世代幼虫															蛹	成虫	卵	第2世代幼虫															
----	---	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	----	---	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- (注) (1) 防除適期は発蛾最盛期から1週間後である。
(2) JPP-NETの有効積算温度計算シミュレーションを用いて算出した。
発育零点(卵13.0℃、幼虫12.5℃、蛹14.2℃)、発育上限温度28.5℃、発育停止温度33.0℃、有効積算温度(卵50.0℃、幼虫250.0℃、蛹90.0℃)
(3) 気温はアメダス大宰府を使用した。(7月13日までは実測値、以降は平年値)

図2 飛来に基づくコブノメイガの発生予想パターン図(第1報:令和4年7月14日作成)